

さまざまな魅力あふれる町内の企業や事業所の仕事内容などについて紹介します。
■問い合わせ先…観光商工課 ☎46-5572

第6回 Introducing business companies

ものをつくる。ひとを育てる。

有限会社東北クリーンサービス

- 所在地…平泉字高田前74-4
- 代表者…代表取締役 杉内博
- 従業員数…120人
- 創業…1963年7月
- 会社概要



有限会社東北クリーンサービスは、1963年7月岩手県南病院事業協同組合として花立地内で創業。1968年10月からはダスキン事業を開始しました。翌年3月に組合から「有限会社県南リネンサプライ」を設立し、この時が、まさしく平泉の町に産声を上げた瞬間でした。それからは、「県南さん」の愛称で皆さまから親しまれ、1970年4月から「おしぼり事業」を開始、翌年には「ホームクリーニング事業」を開始するなど、まさに高度成長の波と、皆さまからの信頼に後押しされ、事業拡大路線を歩み続けました。「有限会社県南リネンサプライ」として培った実績のあるリネンサプライ事業・ホームクリーニング事業・おしぼり事業を集積させた平泉新工場を2003年3月平泉町高田前に建設し、事業移転させ、本社機能も平泉新工場に移して、04年11月に社名を「有限会社東北クリーンサービス」に改め、「トータルクリーン事業を目指して」をモットーに、事業展開をしています。

■問い合わせ先…☎46-2227 ☎46-2006
 電子メール
 tohokucleanservice-h@helen.ocn.ne.jp

Interview

お客さまの満足と信頼に応える



支配人
吉田和雄さん

私たちの仕事はシーツや枕カバー、布団カバー、タオル類など直接肌に触れるものを扱うことが多いので、破損品などがないように気を付けるだけでなく、預かったとき以上に清潔な状態でお届けすることを心掛けています。高齢化社会となり、病院や介護・福祉施設でのリネンサプライ事業の需要が増加することが予想されます。従業員が一丸となって成長すること、またお客さまの満足と信頼に応えることを胸に秘め、さらに邁進していきたいと思えます。



徹底した衛生管理下で作業している

クリーニング事業も展開

渡り温泉での集い

寄稿 平泉中二八会から

9月3日、われらの満八十歳の同級会二八会の集いの日が出て来た。長寿の時代と言えども「よぐこまで生ぎだもんだな」と口々に自分を褒める最高の言葉が出る。

ホテルの玄関口がなにやらにぎわしくなったと思ったら、遠方からの仲間を乗せた送迎バスの到着である。元気な老人たちの若々しい声が一気にドアを開けて入って来た。

この年齢になると腰が痛い、膝が痛い、体の調子が悪いと言いがちになる。参加人数も気が掛かるところだが、予



「平泉中二八会 傘寿の集い」 渡り温泉にて開催

想30人を超えて38人の参加である。元氣、元気。

まあ、まあようこそお越しくださいました。各部屋では長旅の疲れをまずはお茶っこを飲みながら出合いの喜びを交わす時となる。心もほっこりとして。同級会二八会は毎年の行事なので、宴会が始まれば誰がどんな出し物をするのかはお見通しである。

シャンとした姿勢で日本舞踊を舞うサヨ子ちゃん、艶っぽかったよ！ えっ？ 正三くん？ 技を磨いたんだ。豪快な笑いと共にスムーズに手品をやっちゃったよ！ 喝采！ 喝采！！

いやいや、待って待って。出し物ばかりが華じゃない。われらには良い仲間がいるんだよなあ。手作りの花をいつも持って来てくれる友吉くん。温かく気配りを絶やさないうれい子ちゃん。秋夫くんの「座右の銘」の提供は、自分への戒め、心の育みとして。体操で老体を賢く保つていく教えを元ちゃんが。歌で脳の活性化を喜佐人くん。

和を以て二八会が花ひらく。そして、別れの時が来た。八百年の古の空間を超え、地味豊かな田園風景を窓に映しながらバスは走り去って行く。

北部同命二八会 代表 朴澤俊

ふるさと平泉会25年を迎えて

寄稿 ふるさと平泉会 幹事 鈴木郁男さん(南足柄市)から

古里を離れ関東地方に住んでいる平泉出身者が集う会として発足した「ふるさと平泉会」も25年を迎えました。

振り返れば平成5年2月に東京都秋葉原の飲食店において、当時の穂積町長、助役、町職員と町から推薦された私たちが一堂に会したのが始まりでした。当日は設立の主旨について町から説明を受けましたが、私にふるさと平泉会の幹事役が務まるのかと心配した記憶があります。

そしてふるさと平泉会の発足準備が整い、同年5月9日に東京サンケイ会館において第1回目の「ふるさと平泉会」を開催しました。この年は特にNHK大河ドラマ「炎立つ」の放映と重なり懇親会もこの話題で盛り上がり、郷土意識を高めたことを思い出します。その後、10周年の節目の年は平泉町の「平泉ホテル武蔵坊」で開催し、10周年記念誌も発行しました。

ふるさと平泉会も回を重ねてきました。が、会員の高齢化と減少が進んでいます。今後も皆さんからの応援と合わせ、会員を増やす努力が課題となっています。

また世界遺産の町として新たに踏み出した平泉を知るため、本年6月17日に中尊寺本堂で開催された「平泉世界遺産の日」シンポジウムに参加しました。会場となった中尊寺本堂は還暦の年に佐々木邦世さんを始め同級生の有

平泉を掘る

町内には、数多くの貴重な遺跡があります。この遺跡内で住宅などを建てたり、切り土・盛り土の工事をしたりする場合には、文化財保護の観点から事前に埋蔵文化財の発掘調査が必要です。事業を円滑に進めるため、皆さまのご協力をお願いします。

◎発掘調査(野外調査)の実施期間
 発掘調査(野外調査)は毎年4月からおおむね10月までです。11月から翌年3月までは室内整理期間(発掘調査報告書作成など)となり、原則として発掘調査(野外調査)は実施しません。

◎発掘調査の経費
 発掘調査や室内整理にかかる経費については、文化財保護法に基づく原因者負担の原則により、開発事業者に負担していただきます。

発掘最前線 156

発掘調査にご協力を

個人住宅などの建設などの場合は、国庫補助制度を活用するため個人負担はありません。

◎受付期間(開発事業の協議)
 平成30年度の発掘調査は、29年12月初旬までが受付期間です。この期間内に協議があったものを30年度の調査スケジュールに組み入れていきます。

住宅建設などの計画がある場合は、できるだけ早い時期に問い合わせ・協議をお願いします。

◎受け付け・問い合わせ先
 平泉文化遺産センター ☎46-4012
 教育委員会 ☎46-5576



志と節分会に参加した思い出の場所でした。昨年初めてこのシンポジウムに参加しましたが、今年はパネラーとして小学校時代の恩師遠藤公男先生が登場されました。遠藤先生は昔と変わらなずはつきりした口調で町内で語られてきた「夜鷹の話」から話を始め、自然豊かな毛越寺境内の野外授業など「平泉ことば」で会場の笑いを誘いました。

同じくパネラーで紹介された平泉町出身の泉伸弘さんは神奈川県で新聞記者をしていた当時、佐々木邦世さんと共に鎌倉市に働きかけ平泉との文化交流の実現に尽力した人です。詳しい話は泉さんと前日に町内で会って聞くことができましたが、翌日のシンポジウムでもこの話に触れ、皆さんも知ることになりました。また基調講演で鈴木文彦氏から紹介された作家・井上ひさし氏の「井上ひさしから、娘へ五十七通の往復書簡」を購入し読みましたら、母親が金石市に転居し井上氏も県内の療養所で学費を得るため働いたことが書かれ、岩手との深いつながりを知りました。

古里は遠くなりつつありますが、歴史・文化の継承にふさわしい実のあるシンポジウムでした。会員の皆さんもいつか平泉を肌で感じてもらいたいと願っています。